

# パース兵庫文化交流センター インターンシップ報告書

経済学部 2 回生

浜田 素直

実施期間：平成 28 年 2 月 17 日（水）～ 3 月 15 日（火）

## ○インターンシップの内容

インターンシップ前半の 2 週間は火曜から土曜の 10 時から 16 時まで兵庫文化交流センター（以下“センター”）で研修を行った。

センターでの定常的な業務は、図書館の本の整理や寄付された本の貸出し用の登録、日本に旅行する予定のある現地の人が必要としている観光情報の提供などを担当し、週に 1 回 Japanese Conversation Class の「Continuing」と「Beginners」クラスで日本の絵本の読み聞かせなど会話練習のサポートなどをした。毎週土曜日はセンターに併設している日本人学校で子供たちの漢字テストの採点や文法のクラスのサポート、すごろくなどのゲームの補助をしたり、日本に興味があるセンターのメンバーが集まって話をする「Chatter Box」に参加し、現地の方と意見交換した。

2 月 27 日（土）には大規模な日本フェスティバルが開催され、兵庫の名産品「揖保の糸」などを紹介、販売した。今年が兵庫県と西オーストラリア州の姉妹協定の 35 周年であることから、事前にセンターのメンバーと一緒にばタンのうちわを手作りして、当日来場者に配布した。

後半はセンターの日本語クラスやイベントがある土曜日以外は、カーティン大学と西オーストラリア大学（UWA）を訪問して日本人の教授による日本語の授業を聴講させていただいた。



第二言語を習得する学習システムにおいて日本と海外の違いに興味を持っていたことから、インターン期間最後の土曜日にはメンバーの方たちに、研修のまとめと、自分がなぜ言語習得に興味を持ち、活動したかという理由を、自身の国内・海外におけるボランティア経験から説明をした。私のプレゼンテーションを聞いてくれた人たちに、彼らが受けた教育システムと日本の教育システムの違いについてアンケートを行い、言語を学ぶことの意識調査に協力してもらった。

## ○インターンシップで得たこと

現地での生活やセンターでの仕事をすべて英語で行うことによって、ツールとしての英語を実際に自分の経験で実感することができた。中学・高校のときから留学に興味があり、ずっと「何を勉強しに行くのか」「何のために留学するのか」と聞かれ続け、「英語のための留学」ではだめだと理解していたが、それでも一番の理由が英語を学ぶことだった。一か月という短い期間ではあったが、語学研修ではなく英語でセンターの仕事をサポートすることで、「英語はただのツール」であることを実感できた。この感覚を今の時期に持つことができよかったですと思っている。



また、自分自身のプレゼンテーションを作る際に現地の人たちが何を知らうとしているのか、何に興味を持っているのかを、じっくり考えることができた。日本で同じことを考えるのはまた別の視点から物事を考え、フライヤーやプレゼンテーションを作ることができたこともとても貴重な経験だった。

インターンシップ中は初めてのホームステイを経験し、実際に現地の方と暮らすことは文化の違いを実感する一番の方法だと認識した。現地の教育システムに興味があったので、小学生だった2人の「sister」たちのその日の出来事を聞いているだけで多くのことを知ることができた。プレゼンを作っているときもアドバイスをしてくれ、小学校のときから人に見せる、聞いてもらうといった双方向の学習をしていることに気付くこともできた。

さらに、インターンシップ先が日本人や日本に興味がある人が集まってくる文化交流センターだったことから、日本の良さ、日本人としての意識に気付く機会が多かった。日本のことを、文化だけでなく経済や地震などによる災害被害の状況、日本の情報に興味を持っている人と話すことで、どれだけ自分が日本のことを知らないか、どれだけ自分が日々何も意識せずに考えずに生活しているかということに気付きショックを受けた。しかしそれと同時に日本のことを今まで以上に好きになることができた。日本フェスティバルには、日本人だけでなく本当に多くの現地の方も参加されており、知らなかった場所で”Japan”をキーワードにたくさんの方が集まり、日本を知らうとしていることを実際に肌で感じてもっと自国のことを知らうと思った。

○これからの自分にどう活かされていくか

今回のインターンシップは、自分が今まで経験してきたことが繋がって、自分がどういったことに興味があるのか、将来何をしたいのか、何を勉強したいのかを確認させてくれるものだった。また何が自分に足りないのか、自分は何ができないのか気付くことができたことから、今後自分がすべきことがわかったインターンでもあった。残りの大学生活では、就職のことだけでなく、就職後の事もよく考えながら行動できると思う。海外と日本の教育システムを学ぶことで今後日本にフィードバックし、自分の経験についても自分の子供世代の人生の選択肢を増やすものとして生かしたいと思っている。外国から日本を見るという視点はたとえ一か月という短い期間でも、パスで語学研修でもなく、旅行でもなく、兵庫文化交流センターでの仕事をサポートさせていただく経験から得たものである。

○後輩たちに引き継いでいきたいこと、メッセージ

自分が興味を持ったこと、自分が関心を持ったこと、魅力を感じたことは、行動に移したときに失敗や恐れによって邪魔されないよう、早い段階から誰かに話し、発信し、そして行動に移してほしいと思っています。自分が興味をもっていることがこの先どう繋がっていくかはわからないとしても、行動に移し続けていると一見関連性のなさそうなものが繋がり、そこからまた何かに繋がっていくこともあるので、少しでも無謀かな、大げさかなと思っても発信し続けることで実現に近づいていくものだと思います。何かを選択しないといけないときには、「もっとあの時こうしていたら」と後悔することがないように、自分の興味が何であれ突き進んでほしいです。想像もできないくらい充実していて大変でしんどいことさえも、楽しいと思える経験ができるチャンスは意外とたくさんあると思っています。自分で行動する前にそのチャンスに気付いてほしいです。



パスは自分が発信した分だけ応えてくれる場所であり、助けてくれる人がたくさんいました。パスだけでなくどこでもそうだと思います。何かしようと思っている人、自分には何もないと思っている人、1ミリでも興味関心があることを行動に移してください。すごくエネルギーのいるその一歩がその後の自分の人生を大きく変えるかもしれない、他人の人生にまで影響を与えることができるかもしれない、そう思って頑張してほしいです。

自分の視野を広げることがどれほど素晴らしく楽しいか気付ける人が兵庫県立大学にたくさんいてほしいと思っています。応援しています。